

Atellica Solution の夜間自動メンテナンスを活用した日常業務簡素化の取り組み

©中平 直樹¹⁾、森田 温¹⁾、荒木 竜哉¹⁾、西尾 昌晃¹⁾、関島 康弘¹⁾、實原 正明¹⁾
飯田市立病院¹⁾

【背景】Atellica Solution(SIEMENS 社)は、内部精度管理やメンテナンスの自動化を可能にした生化学免疫統合分析装置である。当院は、搬送システムとの接続部 Sample Handler Connect(SHC)/検体搭載部及び QC 保冷库 Atellica SH サンプルハンドラー(SH)/生化学分析装置 Atellica CH(CH)/免疫分析装置 Atellica IM(IM)/Atellica Solution 内の検体搬送ライン Atellica マグライン(VMM)を統合した Atellica Solution を搬送システム Aptio Automation (SIEMENS 社)に接続した状態で2式(以下、Atellica1・Atellica2)導入している。生化学免疫検査担当技師は1~2名であり、全ての検査項目を両号機に搭載していないため、メンテナンス中の検査項目管理が煩雑である。今回、メンテナンススケジュール機能を活用し日常業務の簡素化を図ったので、その取り組みと効果を報告する。【方法】当院の ISO15189 文書、改善提案書の書式に従い運用を開始した。【検証】①メンテナンススケジュール成功率。②日当直者からの苦情。③夜間検査(0~5時) TAT40分超過率。④日常業務の Atellica Solution メンテナンス対応時間。⑤TAT。尚、③~⑤につい

ては処置実施前の2023年4~6月と実施後の9~11月を比較した。【結果】①Atellica1:96.2%、Atellica2:93.8%と多くはスケジュール通り実施された。②システム液が無くなりメンテナンスが失敗した等があった。③実施前(CH:9.5%、IM:4.8%)、実施後(CH:4.4%、IM:9.8%)とメンテナンスによるTATへの大きな影響はない。④実施後では約2時間削減した。⑤TATは、実施前(CH:30.4分、IM:33.6分)、実施後(CH:29.1分、IM:33.2分)と全体で比較してもCHは1.3分以上短縮した。【考察】Atellica Solutionのメンテナンススケジュール機能を活用することで、日常業務を常時2台体制で実施可能になり、TAT改善により医療サービスが向上した。また、メンテナンス中の検体管理が不要になり、負担が軽減した。今回の改善により、ISO15189関連業務や他の業務への時間を確保できた。タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣の指定講習会が行われている今、貴重な勤務時間の確保ができたことは臨床検査技師の業務範囲拡大に向けた取り組みの第一歩であると考え。連絡先：0265-21-1255(内線2080)